

(4) へい死・淘汰要因 (表 12 参照)

アロウカナ交雑のうち、へい死・淘汰率が高かったのは、「③AR×MK」であり、その要因は、特に運動器病に係るもの(脚弱(9羽中3羽))が発生し、次いで消化器病(肝内出血)が発生、また、局所異常(尿酸塩沈着症)、形態異常(交差嘴)、削そう、弱雛が発生したものの、特に目立った症状はなく、検定終了時の454日齢までのへい死・淘汰率は9.3%となった。

次いで、へい死・淘汰率が高かった「②AR×MB」では、特に運動器病(脚弱(4羽中2羽))が発生し、その他、脱肛、弱雛が発生したものの、特に目立った症状はなく、へい死・淘汰率は4.2%となった。

「①AR×EC」では、消化器病(脂肪肝出血症候群)、削そう、腫瘍(腎臓)、弱雛が発生したものの、特に目立った症状はなく、へい死・淘汰率は4.0%となった。

烏骨鶏交雑のうち、へい死・淘汰率が高かったのは、「④UK×MB」であり、その要因は、消化器病(肝内出血(8羽中3羽))が発生し、その他、運動器病(首曲がり・脚弱)、消化器病(脂肪肝出血症候群)、水腫(卵巣)、卵墜症が発生したものの、特に目立った症状はなく、検定終了時の454日齢までのへい死・淘汰率は8.0%となった。

「⑤UK×YA」では、消化器病(肝内出血(4羽中2羽))、腫瘍(腸間膜・腸管漿膜面:4羽中2羽)が発生し、へい死・淘汰率は4.1%となった。

(表 12) へい死・淘汰率 (日齢/羽数)

区分	アロウカナ交雑			烏骨鶏交雑	
	① AR×EC	② AR×MB	③ AR×MK	④ UK×MB	⑤ UK×YA
首曲がり				1.0% (98/13羽)	
脚弱		2.1% (35~/23羽)	3.1% (35~/93羽)	1.0% (211/13羽)	
脱肛		1.0% (306/13羽)			
脂肪肝出血症候群	1.0% (312/13羽)			1.0% (374/13羽)	
肝内出血			2.1% (356~/23羽)	3.0% (238~/93羽)	2.0% (204~/23羽)
尿酸塩沈着症			1.0% (332/13羽)		
水腫(卵巣)				1.0% (303/13羽)	
交差嘴			1.0% (35/13羽)		
削そう(消耗死)	1.0% (310/13羽)		1.0% (64/13羽)		
卵墜症				1.0% (438/13羽)	
腫瘍	1.0% (70/13羽)				2.0% (313~/23羽)
弱雛	1.0% (7/13羽)	1.0% (7/13羽)	1.0% (1/13羽)		
計	4.0% (43羽)	4.2% (43羽)	9.3% (93羽)	8.0% (83羽)	4.1% (43羽)

※ 64W(454日齢:H30/7/1)までのデータとした。

※ へい死・淘汰率は、え付羽数から検査淘汰などを除いたものを補正え付羽数とし、その羽数に対する率とした。